

## 評価委員会における評価尺度（評価軸）【案】

### 評価尺度（評価軸）に関する第1回評価委員会での意見

- 誰から見た尺度か（誰が評価するのか、誰のメリットか）  
利用者、経営者、スタッフ、利用者と介護士の関係変化、介護の定義の変化（介護士の働き方・仕事の変化、介護現場の変化）  
⇒利用者のハピネスを中心に置くべき。介護士の専門性評価・地位向上
- 評価対象
- 測定方法  
要介護度の変化、作業量の変化
- 現場ニーズ（施設・利用者の特性によって異なる。特に認知症）
- 評価委員会のロードマップ（今後の展開を視野に入れた事業評価）
- 介護の科学化（介護の仕分け→標準化→科学化）
- 生みだした時間がどういう価値に結びつくか

### 取組のキーワード

- 1 取組の背景
  - ①介護人材不足（生産年齢人口の減少、介護職員の離職）
  - ②テクノロジーの普及
  - ③感染症対策の必要性
- 2 取組の方向性
  - ①介護職員の心身の負担軽減
  - ②介護の質・安全性の保持
  - ③感染症に強い介護現場づくり
  - ④介護ロボット産業の振興
- 3 目指すゴール
  - ①介護施設等における生産性向上（職場環境改善、介護の質の向上）
  - ②感染症に強い介護現場の実現
  - ③介護サービスの持続性向上・利用者のQOL向上

### 評価尺度（評価軸）の検討視点

#### 1 評価対象施設

- ①（現在の取組対象の）特養
- ②今後の展開を想定した老健、認知症GH
- ③その他

#### 2 評価する事業効果（メリット）

- ①利用者、介護職員、施設経営者それぞれの立場から
- ②利用者と介護職員の関係変化
- ③職場環境改善（職員の負担軽減、働き方の変化）
- ④生みだした時間の活用状況

#### 3 評価指標（評価内容）

- ①利用者：介護の質の向上、利用者の自立支援
- ②介護職員：負担軽減、職場環境改善
- ③施設経営者：介護職員の確保・離職防止
- ④行政：介護サービスの持続性向上

#### 4 評価のロードマップ

- ①令和5年度までの取組に対する評価
  - 市内特養における北九州モデルを含む業務改善の推進
  - 市内の老健・GH等の施設における改善活動の推進
  - 市内介護保険事業所における介護ロボット等の導入推進
- ②令和6年度以降の方向性に対する助言

#### 5 その他（介護保険制度の課題に対する考え方）

- ①介護の科学化←現在の取組が、介護の仕分けに寄与
- ②介護士の専門性評価・地位向上←介護ロボット等導入による専門性向上

『介護政策全般』に関する評価ではなく、  
当室の『事業手法』を中心に評価

## 評価意見整理表

取組名：例) 市内特別養護老人ホームへの北九州モデルの展開

評価 視点	評 価 意 見		
	介護職員の心身の負担軽減	介護の質・安全性の保持	感染症に強い介護現場づくり
利用者			
介護職員			
施設経営者			

## 介護施設における業務種別

直接介助	間接介助	周辺業務
<ul style="list-style-type: none"><li>● 起居・移動・除圧</li><li>● 身の回りの世話</li><li>● 排泄介助</li><li>● 食事・水分</li><li>● 入浴</li><li>● バイタル</li><li>● 処置・薬剤</li><li>● コミュ・レク</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 服薬準備</li><li>● 準備・片付け</li><li>● 共用部見守り</li><li>● 居室巡回</li><li>● 見守り機器確認</li><li>● 職員間連絡</li><li>● 会議・外部</li><li>● 記録・PC操作</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 器具・物品管理</li><li>● 掃除・洗濯・BM</li><li>● その他業務</li><li>● 送迎</li><li>● 受診付き添い</li><li>● 入所・退所時の準備・片付け 等</li></ul>